

市立

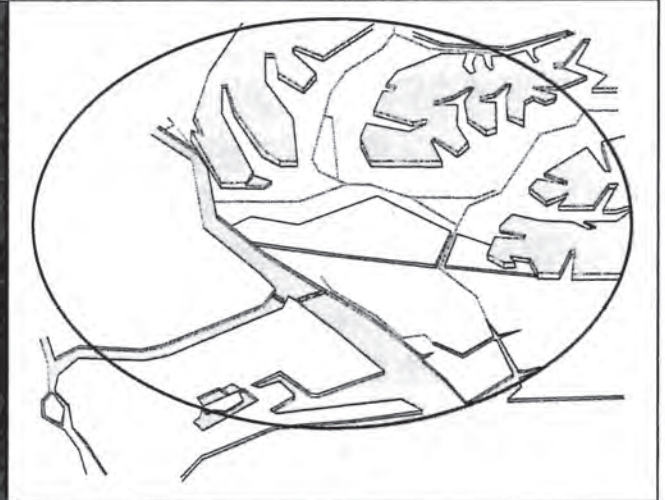
2006年（平成18年）6月1日発行

市川自然博物館

6-7 月号 （通巻104号） だより



自然博物館のめ



ネムノキ

左上：梅雨時に目立つ花と葉
左下：切れ込んだ筒状のがく

右上：長いおしべが花を形成
右下：市内各所に自生、植栽

今年度の特集は、博物館の観察日誌に記録された様々な内容を、「生き物カレンダー」としてまとめました。今月は『6・7月』を紹介します。



いちかわ 生き物カレンダー

6月・7月

日本は「四季」の国と言われますが、関東地方では春と夏の間の梅雨、夏と秋の間の秋雨の、2回の雨期をくわえて、「六季」と考えることもできます。梅雨は、自然の移り変わりの速い春に比べ、じっくりと夏へと向かう季節です。今年度の特集では、平成10年度(1998年)以降の博物館の自然観察記録を、歳時記風にまとめています。

○市川の6月

6月は梅雨の始まりです。日射量が少なく気温の変化は大きく、大雨による災害など快適な季節とは言えませんが、夏に備えて、生き物の成長に必要な水を蓄える大事な時期であり、きちんと梅雨らしい雨が降ることが望まれます。

関東地方の梅雨入り日は、平年だと6月8日です。博物館で記録をとり始めてからは、ほぼ6月上旬には梅雨入りの発表がされています。順当に季節が移り変わっているように見えますが、その後の経過は年によって異なり、まとまった雨の降る年もあれば、梅雨入り直後からほとんど雨が降らず、気温の高い晴天の日が続く年もありました。

梅雨の時期の生き物の活動は、たとえばカブトムシやクワガタムシは、晴れて気温が上がれば姿を見せ始めるように、その日ごとの天候や気温に影響されます。植物では木々の花は少なく、クマノミズキやクリの花にはたくさんの昆虫が集まります。湿地や草原では、ガマなどの地味な草花が咲きはじめます。

○市川の7月

梅雨入り日は例年それほど異ならないのに対して、梅雨明け日は年によって意外とまちまちです。平年並みだと7月20日ですが、2001年は7月11日、2004年は7月13日に、ほとんど雨の降らない空梅雨のまま梅雨が明けました。逆に、1998年と2003年は、いつまでもぐずついた日が続き、8月に入ってやっと梅雨明けになりました。梅雨が明けると、真夏日や熱帯夜が続くようになります。特に、梅雨が早く明けた2001年は記録的な暑さが続き、37.5℃という市川のその年の最高気温が7月中に記録されました。

梅雨明け後の夏の気温の上昇は、生き物、特に昆虫にとっては大切で、一気に活動が活発になります。市街地ではアブラゼミが鳴き出し、長田谷津では、昼間の空はオニヤンマが悠々と飛び回り、夜にはヘイケボタルが光りを放ちます。植物ではヤマユリが林の中で芳香を放ちます。全体的に花は少ない時期になりますが、木々の実は膨らみ、草丈がぐんぐんと伸びる季節です。

いちかわ生き物カレンダー 6月

植物のうごき



ハマヒルガオ



クリ



クマノミズキ



ハンゲショウ

ハマヒルガオ咲く
 カジイチゴのオレンジの実熟す
 ウツギ、ネズミモチ咲く
 ハエドクソウ咲き始める
 ドクダミ咲き始める
 ユキノシタ咲く
 クリの花咲く
 オニスゲの実目立つ
 ムラサキシキブ咲く

アカメガシワ咲き始める
 クマシデの実大きくなる
 クマノミズキ咲く
 ネジバナ咲く
 ミクリ咲く
 ガマ咲き出す
 マヤラン咲く
 イチャクソウ咲く
 シロツメクサ実がつく

絶滅危惧種のノカラマツ
 咲き始める
 ベニバナセンブリ咲く
 アイアシ咲く
 ネムノキ咲く
 チダケサシ咲く
 カラスウリ咲く
 ハンゲショウ咲き始める

動物のうごき

六月上旬

チゴガニ干潟でダンス
 アマガエルおたまじゃくし見られる
 クリの花でアカシジミ吸蜜
 アオバズク見られる
 クサガメ繁殖期で動きが活発
 アシ原でオオヨシキリ鳴く
 トビハゼ、干潟を
 ピョンピョンと飛跳ねる
 シジュウカラやカワセミ、
 鳥の親子見られる



トビハゼ

六月中旬

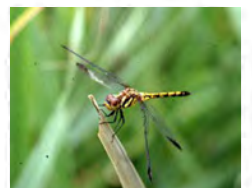
オニヤンマ羽化始まる
 コアジサシ渡ってくる
 干潟はカニでいっぱい
 ウシガエルの
 おたまじゃくしいっぱい
 卵を持ったザリガニ見られる
 夕方ミドリシジミ飛び回る
 カブトムシ、
 クワガタ類見られ始める
 トンボの季節始まる



ミドリシジミ

六月下旬

ウスバカゲロウ羽化
 ヒヌマイトトンボ見られる
 ニイニイゼミ鳴き始める
 ナゴヤサナエ江戸川沿いで羽化
 チョウゲンボウ見られる
 草むらに小さなカマキリ
 干潟にイシガレイの幼魚
 田んぼの小川に、
 いき物たくさん見られる



ノシメトンボ

いちかわ生き物カレンダー 7月

植物のうごき



ミソハギ

オオバトソウ咲く
 セリ咲き始める
 ミソハギ咲き始める
 絶滅危惧種のタコノアシ咲く
 サルスベリ咲き始める
 ホタルブクロ咲く
 ウツボグサ咲く



タコノアシ

アケビ青い実がつく
 クズ咲き始める
 イヌゴマ咲く
 夜、カラスウリの白い花咲く
 イチョウウキゴケ水面をおおう
 ヤマユリ咲き、林内に芳香
 タブノキ丸い実をつける



ヤマユリ

キツネノミソリの花茎が何本も出ている
 ベニバナセンブリ咲く
 モミ球果が上向きにつく
 マコモ黄色い花が咲く
 ジュズダマ伸びてくる

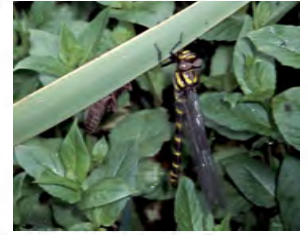
七月上旬

七月中旬

七月下旬

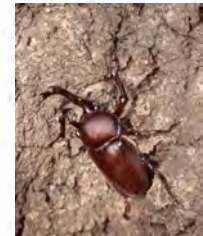
動物のうごき

オニヤンマの羽化ピークになる
 ヒグラシ鳴き始める
 ヘイケボタル、光り始める
 コチドリの雛見られる
 トビハゼが巣穴をつくる
 ホトケドジョウの幼魚見られる
 キアゲハが産卵、幼虫もたくさん
 イオウイロハシリグモ卵を抱える
 キイトンボ、フワフワ飛ぶ



オニヤンマ

ケフサイソガニ卵を抱える
 シジュウカラなどの若鳥の混群見られる
 コオイムシの雄の背にびっしりと卵
 クヌギの樹液にたくさんの昆虫集まる
 カブトムシよく見られる
 谷津の空をオニヤンマがうめつくす
 アブラゼミ鳴き出す



カブトムシ



アブラゼミ

タマムシ飛ぶ
 バッタ類の幼体見られる
 ウチワヤンマ見られる
 カダヤシの親子見られる
 セイタカシギの幼鳥見られる
 アゲハチョウの仲間多種見られる
 ヘイケボタルの発生がピークになる



ヘイケボタル



街かど自然探訪

おじゃまします!

こうや 高谷 1～3丁目・大鷲神社

高谷1～3丁目は、もともとは海が近く漁師町で、行徳地域と同じように道幅が狭く、路地もたくさんあり、ちょっと散策をするには面白い街です。大鷲神社を探してみてください。ヒントは常明寺周辺の細い路地です。路地の先には広場があり、その奥が大鷲神社です。神社には、大きなイチョウやケヤキ、クロマツなどの樹木が茂っていて、梢にはシジュウカラの幼鳥やオナガ、メジロなどが四季折々に観察できます。



くすのきのあるバス通りから No.49

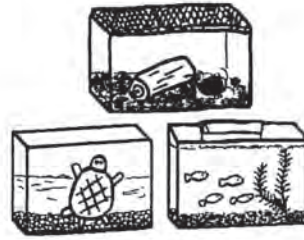
道路用地と家の庭

道路用地のフェンスの中の植物で、季節の移り変わりを感じます。今はフアファと綿毛を飛ばしているチガヤとヒメジョオン、背が伸びたヨモギです。チガヤがいっせいに穂を出した時期はきれいでした。湿原のワタスゲを思い出しました。一時期、犬の散歩の交流場所になっていた事もありました。家を取り壊された次の年は、かつて庭で咲いていたらしい園芸植物が芽を出し花開くのを見かけました。

家の外壁にヤモリの糞がついています。糞の大きさから大きいヤモリと小さいものというようです。夜、そっと家を一周するのですが見つかりません。時間帯が違うのかも。昼間、庭の植木の葉揺れているので気をつけて見ると、5cm位のカナヘビでした。晴れた日に鉢植えのアジサイに水をやり、しばらくするとカナヘビが来て、水滴を舌をだして舐めていました。場所を変えまた舐めました。水分補給だったのでしょうか。

(M. M.)

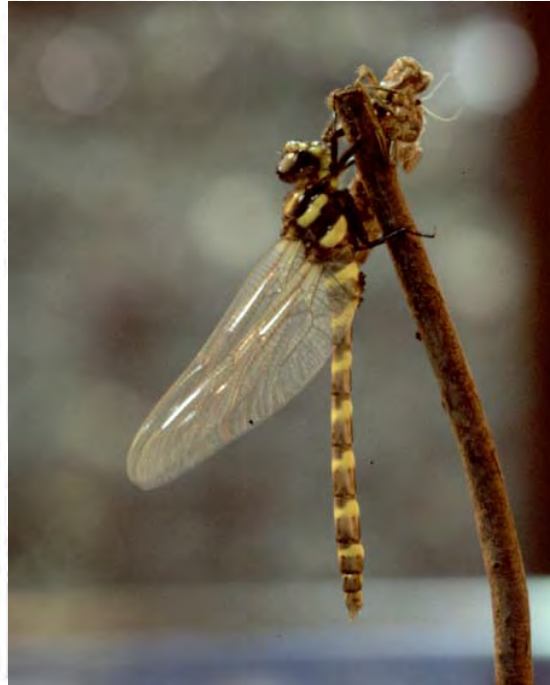
博物館で
こんないきもの飼ってます！



オニヤンマのやご

オニヤンマのやごは、いつでも砂底に潜っています。慣れてくると、2本の触角や目の端、お尻の先端を目印に探せますが、たいていは「いないね。」と通過されてしまいます。

やごが皆の注目を集めるのは、羽化の日です。朝、開館時間までには、たいてい殻から出終わっていますが、枝にとまってジッとしています。水槽の上にそっと水槽を重ねておくと、羽化したてのキラキラした羽、まだ白っぽい目、時々身震いするような動き、大きなオニヤンマを間近でじっくり見られます。



こんなふうには飼っています

※ ※ ※ レイアウト ※ ※ ※

- ・底 砂 … 湧水の流れる小川から採ってきた砂を使っています。粘土分の少ない細かい砂です。全体を同じ厚さには敷かず、水面から出るぐらいの厚めの場所もつくります
- ・水 深 … 深いところで1センチほど。やごの厚みより少し深いぐらい。
- ・その他 … 羽化が近づくと陸地の砂に潜るので、水位を下げて、ひたひたの場所を増やします。

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

生きているアカムシを口元に落としてやります。1匹ずつ様子を見ながらやりますが、終齢でおおよそ5匹ぐらいを週に1～2回やります。

慣れてくると、冷凍アカムシをピンセットでつまんで揺らしてやると食べますが、続けてると飽きて食べなくなります。

観察ノート

◆大町公園より

- ・ルリタテハが園路にとまっていた (3/12)。強い風の中で飛ばされないようにしがみついていた。

西 博孝(自然博物館)

- ・スナヤツメが産卵をしていました (3/17)。今年も無事に繁殖したようです。

阿部則雄さん(船橋市在住)

- ・ヤマザクラが咲き始めました (3/31)。メジロやヒヨドリなどが集まって花の蜜を楽しんでいました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・フクロウが営巣していました (4/14)。

小川 晃(自然博物館)

- ・ムモンホソアシナガバチが越冬場所から出ていました (4/17)。

土居幸雄さん(大町在住)

- ・アゲハチョウが飛んでいました (4/19)。まだ羽化したばかりの蝶でした。

清野元之(自然博物館)

- ・キビタキのさえずりが聞こえました (4/26)。センダイムシクイもはりあうようにさえずっていました。

金子謙一(自然博物館)

◆市営霊園周辺より

- ・フデリンドウが咲きだしました (4/8)。株数を調べてみました (4/19)。4ヶ所の群生地でも400株以上確認、1株で20個の花もありました。

吉田 毅さん(柏井町在住)

◆うしろ谷津より

- ・イヌザクラの大木、中木各1本が八分咲きでした (4/26)。

◆柏井雑木林周辺より

- ・キラソウ別名「地獄の釜の蓋」らしく30~40cmの大株が競うように群生しているのに、久しぶりに出会いました (4/22)。

以上 介川武夫さん(曾谷在住)

◆北国分周辺より

- ・暗い斜面林が枝おろしされ、タチツボスミレの小群落が出現しました (4/9)。

谷口浩之さん(北国分在住)

◆国府台周辺より

- ・林の縁でウラシマソウが咲いていました (4/3)。何本か並んで出ていました。

M.T.さん

◆小塚山公園周辺より

- ・アサギマダラを見ました (4/22)。

◆里見公園周辺より

- ・センダイムシクイのさえずりを聞きました (4/23)。

◆坂川河口周辺より

- ・オオヨシキリのさえずりを聞きました (4/29)。今年の初認です。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

ソメイヨシノが開花してから、低温の日が続く、長く花が楽しめた春でした。



行事案内



観 察 会 お申し込みが必要な行事です。

○いきもの観察会 …いきものの採集を通して、たのしみながら自然に親しみます。2日とも内容は同じです。ご都合のよい日でお申込みください。 /対象・定員：親子先着10組

テーマ	対象	日時	場所	受付開始日
いきもの観察会	トンボやザリガニ 親子	7月9日(日)午前 7月22日(土)午前	長田谷津	6月17日～

〒申し込み方法〒

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
トビハゼのいる干潟	7月16日(日) 午前10時～11時30分	江戸川放水路
キツネノカミソリを求めて	8月13日(日) 午前10時～11時30分	堀之内貝塚

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 7月23日⑩ (8月はお休みです) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 7月2日⑩、8月6日⑩ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

ホタルについての展示をします。

長田谷津に生息するヘイケボタルについて紹介します。

- 期間 7月23日⑩～8月6日⑩
9:30～20:00 (月曜日はお休み)
- 会場 観賞植物園(自然観察園内)
詳しくは博物館まで。

市立市川自然博物館だより
第18巻 第2号 (通巻第104号)
発行日/平成18年6月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku>